

# Portrait

ポートレート

なるせまりん

成瀬茉倫君 総合政策学部3年

シマ唄と三線で郷里・奄美の文化を発信

江戸時代から薩摩藩圧政下で独自文化を奪われ、戦後の米軍占領でも苦しい思いをしてきた……シマ唄にはそんな奄美の人々の生活や苦難、次世代へのメッセージが込められている。小学3年生でシマ唄と三線を始め、数々の大会で入賞。県代表として香港でシマ唄を披露したこともある。一方、高校時代は奄美の過疎化をテーマとした研究で第3回高校生国際シンポジウムの最優秀グランプリを受賞している。SFCでは「奄美の文化発信はもちろん、広い文脈で地域と伝統文化を考えていきたい」と語る。東京に来てからは吹奏楽、オーケストラ、ジャズミュージシャンとの共演も積極的に展開。「同世代にもっと伝統文化に目を向けてほしい」。今年は海外での演奏機会もあるという。



ジャズミュージシャンとのコラボコンサートにて



民謡民舞奄美連合大会 (2021年)



「シマ唄のシマは island ではなく、人々の集まり、集落のこと」